

水枯れ被害が甚大にーリニア計画は凍結を

島津幸広衆院議員は24日の環境委員会で、リニア新幹線のトンネル工事による水枯れなど甚大な自然環境破壊の実態を示し政府の姿勢をただしました。

島津氏は、リニア中央新幹線のトンネル部分は南アルプスだけで59・2キロメートルに及び、静岡県を流れる大井川の流量が毎秒2・2トンの減水となるとの試算に流域自治体首長や住民から不安の声があがっていることを紹介しました。



島津幸広議員＝24日、衆院環境委

島津氏は、大井川流域の7市2町63万人の水道利用量は毎秒約1・39トン(2012年)で、

減水予測の毎秒2・2トンはこれを上回るものだと指摘。大井川が作り出す霧が静岡茶葉の成長に大きな役割を果たしていることから、茶葉産業にも影響を与える」と述べました。

これに対し、国土交通省の篠原康弘鉄道局長は、トンネル工事に伴い導水路をつくり減水のないうようにすると答弁しました。

島津氏は、導水路計画は、JRが設置した「大井川水資源検討委員会」の委員からも大井川に合流するまでの上流区間では枯渇の可能性があると指摘されていることを示し、「懸念の声にどう答え、導水路の対策を実施しても減水した場合、どうするのか」とただしました。

篠原次長は「JRが適切な環境保全措置を講じる」、望月義夫環境相は自然環境保全を「事業者であるJR東海の判断で適切に行われる」と無責任な答弁をしまし

た。

危険な残土置き場でのいいのか

島津氏は、続いて、建設残土について、崩落の可能性がある残土置き場を認可した根拠について質問しました。

篠原次長は、JR東海に管理計画を発生土置き場ごとに作成させ、土砂の流出防止を含めて管理させると答弁しました。また、望月義夫環境相は発生土置き場の適切な選定や管理を求めると答弁しました。

島津氏は、あいまいな表現ではなく、具体的な発生土置き場についての基準を明らかにすべきであると求めました。

島津氏は、不十分なアセス法そのものを抜本的に改正する必要があると指摘するとともに、環境省の対応は不十分だと批判し「リニア計画は凍結し見直すべきだ」と主張しました。

オオタカ生息調査へーリニア駅アクセス道路 県が区間決定見送る

岐阜県都市計画審議会

中津川市に計画されるリニア中央新幹線岐阜新駅へのアクセス道路予定地で、希少種のオオタカが確認された問題で、県は3月16日の都市計画審議会で、3月末までに予定していた区間決定を見送りました。春から夏にかけて、オオタカの生息調査をおこなうためです。

岐阜県は昨年11月、ルート予定地の近くでオオタカの巣を確認。実際に巣で活動する春から夏に生息を調査し、専門家の意見を踏まえて対応を決めることとしていま

す。審議会で県の担当者は、「調査結果が出ないと、道路建設の今後の見通しもわからない」と説明しました。

アクセス道路は、中津川市千旦林に設置される予定のリニア新駅東側500mほどの位置を通り、木曾川の美恵橋から中央自動車道までの約5キロを南北に結ぶ計画。岐阜県は、リニア開業の2027年までの完成を目指しています。

県は昨年10月の審議会で区間を決めようとしたましたが、希少種

保護などの理由から、計画案に反対する県民意見が多く、委員側からも「これだけ反対意見があるなかでの採決は時期尚早」との指摘があり、採決をすることはせず、審議を続けてきました。「中日」岐阜版より

